

温室内の植栽変更について

(1) 大温室バナナ植栽地土壤入れ替え

永井親雄・柴田昌男

3年前より、バナナの偽茎が折れるなど生育不良がみられたので2003年10月上旬に、業務委託により古土を取り除き、土壤入れ替えを行った。

1 数量：面積は46.0m²、深さ40cm床堀・敷均で合計18.4m³になった。

培養土は、下表のように真砂土をベースにし、土壤改良剤、肥料を所定量散布してバックホーで3回混合した。

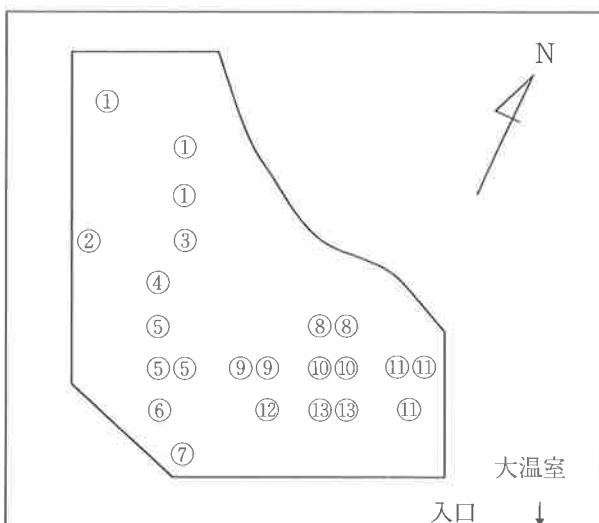
表1 培養土にした資材と数量

名 称	数 量
真砂土	12.88 m ³
バーク堆肥	5.52 m ³
牛糞堆肥	349.60 kg
苦土石灰	19.99 kg
カキガラ	19.99 kg
マグアンP-K	39.99 kg
硫酸加里	19.99 kg

2 植栽位置図

① *Musa acuminata* ‘Hshangchao’
タイワンバナナ ホクショウ

- ② *M. acuminata*
- ③ *M. acuminata* ‘Born’ ボーンバナナ
- ④ *Ensete sp*
- ⑤ *M. chiliocarpa* センナリバナナ
- ⑥ *Ensete glaucum* ショウタイバショウ
- ⑦ *M. textiles* マニラアサ
- ⑧ *M. sumatrense* トラフバショウ
- ⑨ *M. acuminata* ‘Sen-nin-sho’
タイワンバナナ センニンショウ
- ⑩ *M. sapientum* フランバナナ
- ⑪ *M. acuminata* ‘Dwarf Cavendish’ サンジャクバナナ
- ⑫ *M. ×paradisica* ‘King’ キングバナナ
- ⑬ *M. paradisiaca* ‘Cham Baker’ モンキーバナナ



(2) 食虫植物展示コーナーの移設

永井親雄・坂原治男

大温室内北側にあった食虫植物展示室を老朽化により解体し、2003年7月に熱帯スイレン温室内北側に移設した。展示主旨は、自生地風の植栽や解説パネル、模型や虫眼鏡での観察などをとおし、食虫植物を理解してもらうこととし、併せて大型模型で記念撮影をする遊び的要素も取り入れた。

1 溶岩の築山

鹿児島・桜島産の溶岩（40cm～20cm角大）で、中にプラスチック製心池を大小2個とヤマモモの枯木を据付け築造した。

展示は、枯木にウツボカズラの吊り鉢、心池にはサラ

セニア類、ハエトリソウ、岩間にモウセンゴケ類、ムシトリスミレ類を植栽した。



写真1. 築山部

2 ウツボカズラの模型

*Nepenthes 'Dyeriana'*をモデルにFRP製で、つば中の構造が見えるようにした。



写真2. ウツボカズラの模型

3 解説パネル

①食虫植物とはどういう

ものかを説明

(写真3)

②虫の捕まえ方のタイプ

を説明

(写真4)

③世界の食虫植物の分布

を世界地図上で説明

食虫植物は、ハエやコガネムシなどの昆虫やカエルやネズミなどの小さな動物を捕まえ、消化して養分にする植物です



写真3. 解説パネル



写真4. 解説パネル

4 拡大鏡での観察

ハエトリソウ、モウセンゴケの形態を拡大鏡で見るよう展示した。



写真5. 拡大鏡による観察

5 ハエトリソウの大型模型

記念写真撮影用として、FRP製のハエトリソウ模型を設置した。



写真6. 記念撮影コーナー

6 その他周囲の展示

天井部に、頭上よりウツボカズラが下がるように取り付け、柵にも同じく取り付けた。



写真7. ハンギング用の鉢に植え付けたウツボカズラ

7 展示品種

① ウツボカズラ 計37株

Nepenthes ampullaria

N. ampullaria var. vittata

N. kahsiana

2株

<i>N. maxima</i>	11株	② サラセニア	計44株
<i>N. maxima</i> × <i>veitchii</i>		<i>Sarracenia flava</i>	32株
<i>N. merrilliana</i> hyb.		<i>S. leucophylla</i>	7株
<i>N. mirabilis</i>		<i>S. minor</i>	3株
<i>N. rafflesiana</i>		<i>S. purpurea</i> × <i>psittacia</i>	2株
<i>N. rafflesiana</i> var. <i>nivea</i>		③ ムシトリスミレ類	計30株
<i>N. truncata</i> hyb.		<i>Pinguicula</i> cv.	
<i>N. ventricosa</i> (♀)		④ ハエトリソウ	計20株(11月まで)
<i>N. 'Dyeriana'</i>	9株	<i>Dionaea muscipula</i>	
<i>N. Facile Koto</i>		⑤ モウセンゴケ類	計10株
<i>N. Fukakusana</i>		<i>Drosera capensis</i>	
<i>N. Issei</i>		⑥ タヌキモ属	
<i>N. 'Mastersiana'</i>		<i>Utricularia bifida</i>	1株
<i>N. Rubescens</i>		<i>U. gibba</i>	小型水槽1基
<i>N. Sanyo</i>		<i>U. sandersoni</i>	1株



(3) 热帯スイレン、オオオニバス

植栽状況

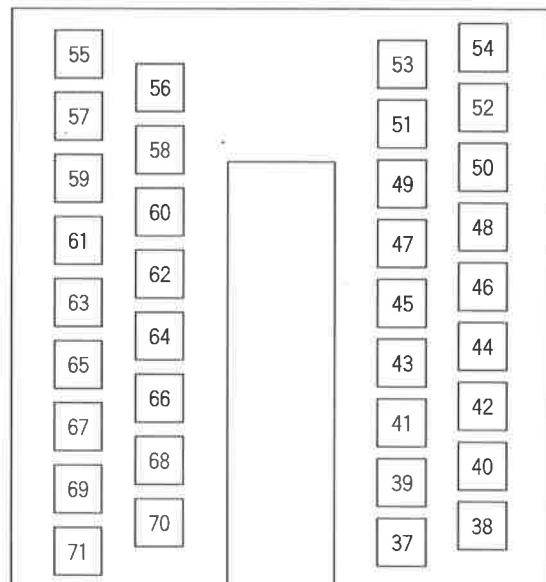
永井親雄・坂原治男

上池は2003年6月12日に、下池は同年12月10日にそれぞれ全鉢の土壤入れ替え及び植替えを行った。なお、用土は田土のほか、赤玉土中粒を上池：1/3袋、下池：1/2袋混合した。

オオオニバス類は、オオオニバスの子株・種子を2002年9月に熱川バナナワニ園より、バラグアイオニバスの種子を2003年3月に下関市立園芸センターより導入した。

オオオニバスは、子株を直ちに植え付け、さらに播種し、新株を植えつけた。持ち帰った子株は、2003年8月下旬ころより、新葉が縮れるなどの症状が出たため、9月中旬に廃棄した。バラグアイオニバスは、2003年3月に播種し、5月に植え付けた。梅雨期までの生育はすこぶる順調であったが、夏季の低温・日照不足のためか生育が停滞し、8月下旬の試乗体験会時の葉直径は1m 30cm程度であった。ロングウッドオオオニバスは、2001年に当園で交配した種を栽培展示した。生育はバラグアイオニバス同様であった。

上池 (37~71)



下池 (1~36)

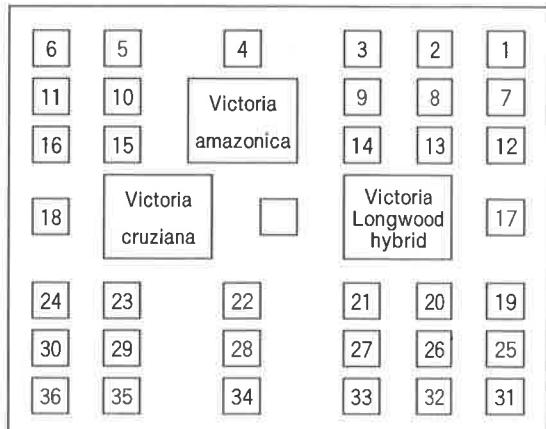


図. 热帯スイレン温室植栽図